

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

September
ISSUE

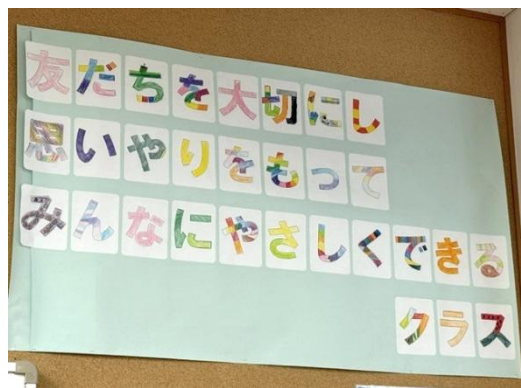


September, 2026
Volume 170

「利他」の心で秋学期のスタートを

夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。秋学期は1番長く、学校行事も盛りだくさんです。子どもたちが安全に充実した日々を送れるよう、サポートしてまいりたいと存じますので、今学期もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、秋学期の開始にあたり、子どもたちに意識してほしいと思うことがあります。それは春学期当初にクラスで決めた目標と、そこに至るための確認事項（エッセンシャルアグリーメント）です。例えば「友達を大切にし、思いやりをもってみんなにやさしくできるクラス」「明るく優しく協力するクラス」など、子どもたちは4月に1年分の思いを込めて目標を設定しました。



私は担任をしていた当初から感心していたのですが、子どもたちのクラス目標は実によく考えられています。「思いやり」「協力」といった、人として大切な行いが必ず含まれているのです。

この夏、京都の私立小学校の研修会で京セラ創設者、稲盛和夫氏の名前を冠した「稲盛ライブラリー」を訪れました。稲盛氏が会社を設立するまでのエピソードや開発した商品などが展示されているとともに、会社の運営方針が紹介されていました。この運営方針、実は人としての生き方や信条でもあり、私自身、深く考えさせられました。

稲盛氏の会社経営方針や生き方の指針はどれも「利他」がベースになっています。「人のため、世のために役立つ

ことをなすことが、人間として最高の行為である。」と稲盛氏は語っています。また「個人の資産は社会からの一時的な預かり物で、いつかは社会にお返しすべきもの」との考えから、研究者をサポートする稲盛財団を創設されました。稲盛財団主催の京都賞を受賞した方々の中には、後にノーベル賞を受賞した方々がなんと11名もおられ、その中にはiPS細胞の研究をされている山中伸弥氏も含まれています。同志社の良心教育と同じく、このように人のために行動することは「人間として最高の行為」であり、人生の様々な場面の基礎であると思います。

子どもたちが設定しているクラス目標はこの「利他」に通じており、是非これらを再度意識して秋学期を開始してほしいと思うのです。時には主張がぶつかったり、ちょっとした誤解でトラブルが生じてしまったりすることがあるかもしれません。しかしその際に自分の意見を押し通そうとするのではなく、少し相手の話に耳を傾けるだけで状況は変わります。家族や友達、身の回りにいる人々を大切にする行為は、最終的に自分の幸せにつながります。

この秋学期、保護者の皆様におかれましても、ご家庭でお子様のお話を聞いていただく際に今回の話題を思い出していただき、お声掛けをしていただくと幸いです。

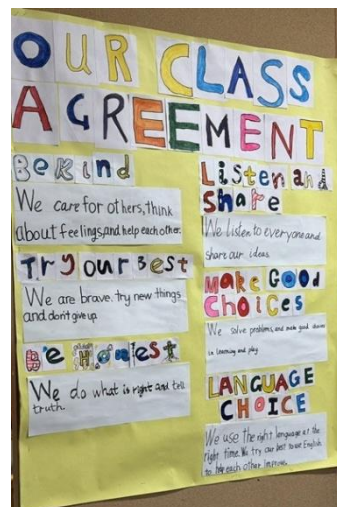
重ねまして、今学期もどうぞよろしくお願いいたします。

副校長 ロハス亜紀

《参考》

稲盛和夫 Official Site

<https://www.kyocera.co.jp/inamori/>



キリスト教教育

9月：調和 September：Harmony

聖書：「それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。」

コリントの信徒への手紙一 12章 22節（聖書協会共同訳）

春学期に来校して絵本ライブをしてくださった長谷川義史氏については前号で校長も記事にしておりましたが、今回は全く筆者の好みで、特に一冊の絵本をご紹介しますと思います。

「たこやきのたこさぶろう」長谷川義史・作 小学館

『行かせておくんせー。』とあるたこ焼き屋に響き渡る、たこ焼きの「たこさぶろう」の声。たとえ家族に止められても、たとえ仲間に止められても、「たこさぶろう」にはどうしても行かねばならない深ーい理由があったのです…。』とは、表紙カバーに書かれた絵本の紹介です。一体何事だろうとページを繰って読み進めていくうちに、終盤になってその理由が明らかになります。

まだ読んでいない方へのネタバレになるといけませんので結末を書くことは控えますが、関西特有のお笑い要素がふんだんに取り入れられたこの作品は、一見すると誰が読んでも抱腹絶倒間違いなしの明るい絵本です。

しかしながら、「家族や友人と離れ離れになったとしても自分はどうしてもここにはいられない、いるわけにはいかない、なぜなら自分は他の者とは全く異なる運命を背負って生まれてきてしまったから…。」と思い詰めて家出を決心した一人の青年の物語として作品を読んでみると、明るくユーモラスな画風とは裏腹に、心に孤独を秘めた主人公の悲哀が伝わってくるようです。「なあ、たこさぶろう、世の中にはおまえを必要としている人もいるんやで。…」長老の「たこざえもん」の呼びかける声にも耳を貸さなかった「たこさぶろう」が後に心を入れ替えたのは、本当に自分を必要としている人に出会った瞬間でした…。

何か特別な才能を持った人が「ここでは自分の出番がないが、いつか必ず自分を必要としている人や場所に出会える。」と考えることは、比較的容易です。でも、自分にとって弱点としか思えない部分、できることなら目を背けて生きていきたい部分をこそ必要としている人や場所があるなどということは、なかなか考えるにくいのではないのでしょうか。けれども聖書には、はっきりとこう記されています。「ほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。」

新約聖書コリントの信徒への手紙一を書いたパウロという人は、他のキリスト教信者にはない弱点を持っていました。肉体的には、何かの持病や障がいがあったことが伺われます。しかし何よりも違っていたのは、つい最近までキリスト教に入信したユダヤ人同胞を迫害し、家々に押し入って彼らを男女の別なく縛り上げ監獄に送り込んでいたことで、その過去の行いに対する負い目や引け目が常にありました。回心したパウロは努めてユダヤ人信者に溶け込もうとしましたが最初のうちは信じてもらえず、恐れて皆から距離を取られていたようです。

イエスの十二弟子でも一番弟子だったペトロは主にユダヤ人同胞に伝道し、大都市エルサレムで信者をまとめることに尽力しましたが、パウロは途中から異邦人宣教の道へ進み、地中海を何度も船で旅して異国の人々にキリストの教えを伝えました。宣教の過程ではユダヤの古い掟や慣習にこだわる「ペトロ派」の人々に物申し、その結果いわゆる純ユダヤ人の教会からは一時孤立することになったようですが、困難の中で書いた地方の諸教会への手紙類が、今では「新約聖書」として万人に大切に読まれています。

パウロの以前の強みは「由緒あるユダヤ人の家柄で教養が高かったこと。ユダヤ人でありながらローマの市民権を持つ裕福な家庭であったこと。育った土地柄、地中海の共通語であったギリシア語を駆使出来たこと。」等でした。でも、パウロの本当の強みは「復活のキリスト」に出会い、自分の弱さを誇るができるようになったことだったのです。

Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓

<お知らせ>

9月8日（火）おにぎり献金



- 国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター（石川県能登半島地震支援金口）・熊本 YMCA（2026 年熊本地震救援・復興支援募金）
- 海外：日本ユニセフ協会「人道危機緊急募金」

今年度は従来の施設に加え、本年 7 月 28 日に勃発した熊本地震を覚えて、新たに熊本 YMCA を募金先に加えて献金をお捧げします。賛同していただける方は、お子様に献金をお持たせください。

「G1 Unit2 Sharing The Planet」

1年生の学校生活が始まり、4月から2か月ほどたったころ、2つ目の探究学習 Unit2「Sharing The Planet」が始まりました。皆さんは「Sharing The Planet」と聞くと、どのようなことを想像しますか。1年生の子どもたちに聞かけると、「宇宙」や「惑星」などの声があがりました。本校で行っている国際バカロレア教育の教科の枠をこえたテーマの一つに「Sharing The Planet」、「この地球を共有すること」があります。人間の世界と自然の世界の相互依存関係をすべての生き物の権利、責任、尊厳などを通して学んでいきます。子どもたちには、「宇宙の中にあるみんなが住んでいる地球について探究していこう。」と伝え、探究学習が始まりました。「この地球に住んでいるのはだれだろう？この地球にはなにがいるかな？」と聞かけると、動物や植物など、様々なものの名前があがりました。子どもたちに聞かけると、本当にたくさんの考えや知っていることがらが出てきて驚かされます。大人も知らない虫の名前や危険生物などの名前があがり、こちらが教えてもらうこともあります。互いに学び合うことができるのは、集団で学ぶことの意義の一つです。



そこから、子どもたちと「生き物のくらしとすみかには繋がりがあある。」という考えのもと、特に動物にフォーカスを当てて探究を進めました。1年生にとって初めての校外学習で、動物の見た目や特徴、すみかについて、京都市動物園に調べに行きました。何度も行ったことがある動物園でも、みんなで行くともたひと味もふた味も変わってくるようです。熱心に動物を見て、動物の絵を描いたり、メモをしたりしている子どもたちがたくさんいました。また、動物園にある池や道端にいる生き物にも興味を示し、観察をしたり触れたりしている子どもたちもいました。羊やヤギと触れ合う活動では、怖がっていた子ども

たちも、近づいて撫でたり餌をあげたりしていました。「ざらざらするね。」「高いところにジャンプした！」など近くで触れ合えることで知ることができたこともたくさんありました。また、京都水族館へ行き、海や水辺にすむ生き物についても調べました。イルカの賢さを知ったり、アザラシの愛らしさや泳ぎの上手さに気づいたり、クラゲの食べるものについても学びました。飼育員さんに質問をしている子もいました。学校ではなかなかふれることができない本物の生き物が目の前にいることで、写真や映像などの平面で学ぶよりも気持ちを動かされたり、探究心を掻き立てられたりするのだなと感じます。低学年のうちには、実際に見て、触れて、感じて、生き物を育てたり世話をしたり、体験することがとても重要です。



学校では、朝顔を育てる活動もしました。「種はどんな形かな。」ということから、自分のプランターに自分で植えて育てることでより成長を楽しみにしてわくわくし、毎日の水やりも責任をもって行っていました。「先生、



水やりしてきます！」と毎日欠かさず行う子どもたちに「いってらっしゃい！」とやりとりする日常にこそ子どもたちの成長や経験のタネがあると感じました。雨あがりの日にも、「今日は水やりいるかなあ…」と子どもたちなりに考え、行動する姿もありました。芽が出た時には、「先生、朝顔が出てる！」と嬉しそうに報告してくれました。「○○くんのはもう5こも出てるで！」と友達と比べ、また水やりに精を出す子どもたち。芽が少し大きくなった頃には全員で観察に行きました。観察をして絵に描き、習いたてのひらがなで気づいたことを簡単に記しました。「葉っぱの触り心地や匂い、大きさや形などをよく見てみよう。」と声をかけ「Research Skill」を

使うよ。観察して調べたり記録したりするよ。」と伝えると子どもたちもよく見て触ったり匂いを嗅いだりして観察していました。

Unit2「生き物のくらしとすみかには繋がりがあある。」の探究学習の終わりには、自分で1つの動物を選び、調べる活動を行いました。本からその動物が住んでいるところや動物の特徴についてまとめ、発表しました。それぞれに自分で選んだ動物について、「○○に住んでいるよ。」と自分の言葉で発表することができ、1年生の成長を感じました。1年生の探究学習はまだまだ始まったばかりです。これからも実際に見たり、体験したりする活動を通して多くの刺激を受け、探究心がより育っていくことを楽しみにしています。



September Update: Resilience in the Learning Process

Dear Parents,

As we begin the second term in late August, students are settling back into their classroom routines. A key focus as we move forward might be developing the self-management sub-skill of **resilience**.

In Grade 6, for instance, classes are nearing the end of the "tuning in" and "finding out" phases of their inquiries. As they transition into organizing, analyzing, and sorting through their research data, things inevitably get a bit messy and challenging. This is the exact point where resilience, the ability to work through setbacks, adjust when an initial idea doesn't pan out, and keep going, becomes essential.

Whether students are organizing complex information or thinking again about their ideas, learning requires them to overcome obstacles.

You can support this at home by encouraging that same perseverance:

- "What was a tricky part of your work today, and how did you handle it?"
- "When something didn't go as planned, what did you try next?"

By valuing the effort it takes to work through challenges, we help our students build the stamina they need to be independent learners.

Sincerely,

Chris Elsdon PYP Coordinator

9月アップデート：学びにおけるレジリエンス（困難を乗り越える力）

保護者の皆様

8月末に秋学期を迎え、児童たちは再び学校での日常のリズムを取り戻しています。今学期を進めるにあたり、私たちが特に焦点を当てていくべきなのが、自己管理スキルのサブスキルであるレジリエンス（困難を乗り越える力）です。

例えば6年生では、探究の「チューニング・イン」や「ファインディング・アウト」の段階がほぼ終わりを迎えようとしています。調査データを整理し、分析し、仕分けしていく段階に移行するにつれ、どうしても物事は少し複雑で難しくなってきます。まさにこのポイントで、行き詰まりを乗り越え、最初のアイデアがうまくいかなくても調整し、やり抜き続ける力であるレジリエンスが不可欠となります。

児童たちが複雑な情報を整理するにせよ、自分たちのアイデアを改めて見つめ直すにせよ、学びには障害を乗り越えることが求められます。

ご家庭でも、ぜひ同じような粘り強さを励ますことでサポートをお願いします：

- 「今日、作業の中で難しかった部分はどこ？どうやってそれを乗り越えた？」
- 「計画通りにいかなかった時、次にどんなことを試してみた？」

困難に向き合い続けるために必要な努力の価値を認めることで、児童たちが自立した学習者として成長するためのスタミナを育むことができます。

敬具

クリス・エルスドン PYP コーディネーター



朝夕の風に、ほんのわずかではありますが秋の気配が混じり始めました。日中はお厳しい暑さが続いているものの、空の高さや雲の形、夕暮れの色合いには、季節が次の頁へと移ろうとする静かな兆しを感じられます。長い夏休みを終え、校舎には再び子どもたちの声が戻ってきました。静けさに包まれていた廊下や教室も久しぶりに響く足音や笑い声によって、少しずつ本来の姿を取り戻しています。学校という場所は、子どもたちがいてこそ学校になるのだということを、この時期になると改めて感じます。

再び始まるということ

新学期を迎えるたびに思うことがあります。それは、「始まり」は必ずしも4月だけのものではないということです。4月の始まりはわかりやすいものです。新しい学年、新しい教室、新しい友達や先生との出会いがあり、誰もが目に見える形で節目を迎えます。しかし9月の始まりは、それとは少し性質が異なります。見慣れた校舎に戻り、同じ教室に入り、これまで共に過ごしてきた仲間たちと再び顔を合わせる。その意味では「元に戻る」ようにも見えます。

しかし実際には子どもたちは春と同じ場所へ戻ってくるわけではありません。人は変化ということ、何かが大きく変わることを想像しがちです。しかし人の成長の多くは、そのように分かりやすい形で現れるものばかりではありません。夏の間に得た経験や感じたこともまた、すぐに目に見える変化として現れるとは限りません。後になってふと考え方が変わっていることに気づいたり、新しいことに挑戦する力となって現れたりすることがあります。子どもたちがこの夏に積み重ねた時間もまた、それぞれの内側で静かに熟しながらこれからの日々につながっていくのだと思います。

春学期の中で積み重ねてきた経験があり、その上に夏休みという普段とは異なる時間の流れの中で過ごす日々がありました。家族と過ごした時間、何かに夢中になった時間、思い通りにいかなかった時間、何気なく過ぎていった時間。その一つ一つは異なっている、それぞれが子どもたちの内側に確かに刻まれています。だからこそ9月の始まりは「続き」であると同時に、「新たな始まり」でもあります。子どもたちは夏の経験を携えながら、再び学校という日常へ歩みを進めていきます。

戻ることの難しさ

一方で学校へ戻るということは決して容易なことばかりではありません。長い休みの後には、生活のリズムを整え直す必要があります。自分のペースで過ごしていた時間から、集団の中で生活する時間へと再び移行していかなければなりません。大人であっても休暇の後に日常へ戻る際には少なからず心身の負荷を感じるものです。まして成長の途上にある子どもたちにとって、その変化は決して小さなものではありません。朝の支度に時間がかかったり、登校前の足取りが重かったり、学校生活のリズムを取り戻すまでに時間が必要だったりすることもあります。

しかしそのような姿を必要以上に心配したり、後ろ向きなものとして捉えたりする必要はありません。季節が一足飛びに秋へ向かわないように、人の心もまた、ある日突然切り替わるものではありません。暑さの中にふと涼しい風が混じる日があり、空の高さに秋の気配を感じる朝がありながらも、日中にはまだ夏の名残が色濃く残っています。季節がそうして少しずつ姿を変えていくように、子どもたちもまた、それぞれの時間をかけながら学校の日常へと戻っていきます。

学校全体を見渡していると9月の子どもたちの姿は実にさまざまです。久しぶりの再会を心待ちにしていた子もいれば、新学期への緊張や戸惑いを抱えている子もいます。しかしそのどちらも自然な姿です。大切なのはその違いを良し悪しで捉えることなく、それぞれが自分なりの歩幅で再び学校生活を歩み始めているという事実を目を向けることなのだと思います。

学校という場所

学校においても新学期の始まりを単なる再開とは捉えていません。秋学期の探究や宿泊学習、学校行事はもちろん大切です。しかしそれ以上に大切なのは、子どもたちが安心して学校という場所に戻ってこられることです。毎年この時期になると、学校としてまず大切にしたいことがあります。それは「早く元の状態に戻すこと」ではなく、「安心して子どもたちが学校へ戻ってこられること」です。

久しぶりに顔を合わせる友達との会話。教室で交わされる何気ないやり取り。授業中の落ち着いた時間。そうした一見当たり前に見える日常の積み重ねこそが学校生活の土台になります。春学期、子どもたちは新しい環境に戸惑いながらも少しずつ自分の居場所を見つけ、時には揺れや迷いを経験しながら日々を積み重ねてきました。そして今、子どもたちは再び学校へ戻ってきています。しかしそれは春と同じ場所へ戻るということではありません。春学期の日々と夏の経験を携えた、一人一人の新たな歩みの始まりです。

季節は少しずつ秋へと向かいます。実りの季節はある日突然訪れるものではなく、見えない時間の積み重ねの先に訪れるものです。その移ろいの中で子どもたちの内側に育まれてきたものが、これからどのような形で表れてくるのかを楽しみに見守っていきたいと思います。子どもたち一人一人が安心して新学期の一步を踏み出せるよう、学校としても環境を整えながら支えてまいります。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。



防災の日

9月1日の防災の日に合わせて、DIA Library では防災の備え、災害時の応急処置など実践的な情報が載っている本の展示をしています。マンガやイラストを多く使用しているのでぜひご家庭でも一緒に確認くださいませ。

*お話の紹介文は出版者のHP から抜粋しています。



『いざというとき自分を守る防災の本』

作：防災問題研究所編 出版者：岩崎書店



地震がテーマ。地震にあったときに「3つ」のものから逃げるとは？避難の準備から方法、津波への対応など、自分の命を自分で守る方法を全て網羅する。備えあれば憂いなし！

2011年の東日本大震災以降も毎年のように自然災害に見舞われている日本列島。いつどこでなにか起こるかわからず、日ごろの備えが何より重要となる。いざというとき迷わず行動するためにも「これだけは身につけておいてほしい」というポイントを網羅した。

『「水災害」に備えて～わたしたちのできること～』

橋本淳司著 出版社：あすなろ書房



日本は水災害を起こしやすい環境下にあります。このシリーズでは、台風や豪雨、津波といった水災害についての理解を深め、SDGsの視点、防災教育へとつながる内容をわかりやすく紹介します。

過去に起きた水災害の事例やハザードマップをもとに、避難の目安、台風の接近状況に応じた行動チェックリストづくり、断水時に健康状態を保つ方法など、役立つ対策をわかりやすく紹介します。

9月の主な行事・予定

9月9日(水)～11日(金) G3 宿泊学習
9月15日(火)～18日(金) G6 修学旅行

1	火	
2	水	入試準備(午前授業)/Preparation for Entrance Exam(AM lessons)
3	木	入試/Entrance exam
4	金	入試/Entrance Exam
5	土	
6	日	
7	月	Unit3(week2)
8	火	
9	水	委員会活動/Students' Committee G3 宿泊 Overnight Trip
10	木	G3 宿泊 Overnight Trip
11	金	G3 宿泊 Overnight Trip
12	土	
13	日	立石杯(プレゼン大会)Tateishi Cup (Presentation competition)@Doshisha Univ. Imadegawa
14	月	Unit3(week3)
15	火	G6修学旅行 / G6 Overnight Trip
16	水	G6修学旅行 / G6 Overnight Trip G4校外学習 / Field Trip
17	木	G6修学旅行 / G6 Overnight Trip G4学年懇親会 / Get together
18	金	G6修学旅行 / G6 Overnight Trip
19	土	
20	日	
21	月	敬老の日 / Respect for Aged Day
22	火	国民の休日 / National holiday
23	水	秋分の日 / Autumnal Equinox Day
24	木	PYP Planning (AM lessons)
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	Unit3(week4)
29	火	
30	水	

10月の主な行事・予定

10/1(木)～	参観授業
8(木)	
10/13(火)	G1 校外学習
10/21(水)	PYP Planning (午前授業)
10/22(木)	スポーツデー準備
10/24(土)	スポーツデー
10/26(月)	スポーツデー代休
10/28(水)	スポーツデー (予備日)
10/30(金)	収穫感謝礼拝 / ハロウィーン